

福島県PTA連合会

研修委員会だより合併号

今だからやれること ～新しい活動のあり方～

本格的な冬が訪れ、今年度も残りわずかとなりました。いまだコロナ禍収束の兆しは見えず、昨年度末から今年度において各学校のPTA活動はもとより本市PTA連合会の活動も中止や自粛といった今までにない状況となっています。新しい生活様式やオンライン授業など、子どもたちを取り巻く環境は日々変化しており、私たち保護者も手探りで支え見守ってきた一年でした。

本市PTA連合会も今年度は「今やれることを」という趣旨のもと、従来の活動内容にとらわれることなく新しい形での活動を進めてきました。年度初めの書面総会に始まり、各委員会においても見直しを含めた活動を行っています。家庭教育推進委員会では例年開催の研修会は行わず、「家庭教育に関するアンケート」調査を市内72校の保護者を対象に初めて実施しました。GoogleフォームやQRコードなどネットを利用した方法で行い、現在集計分析作業中です。たくさんのお返事をいただき、この結果は今

後の活動に活かしていきたいと思えます。

また来年度は本市において「福島県PTA研究大会」の開催が予定されており、東日本大震災から10年、県PTA活動70周年という節目の大会となります。子どもたちのためにという思いは私たちの活動の原動力でありこれからも変わることはありませんが、時代に合った活動や新しい研究大会の形を作っていければと準備検討を重ねているところです。

「子どもたちにエールを！
～五感でつながる喜びの輪～」

来年度の福島大会でたくさんの方々につながれることを楽しみにしています。

母親代表理事

大須賀 祐香

(福島市)



「会長になって思うこと」～周りの理解と協力があったからこそ～

小学校のPTA会長になり3年目を迎えました。私は4人の子と素敵な夫に恵まれた兼業主婦です。私が会長を引き受けたのは、役員が決まらず何度も集まって話し合いをした結果『もうママがやっら？』という夫の一言があったからです。

会長になってから分かったのは、行健小の女性会長は私が初めてということ。予想外のプレッシャーを感じましたが、活動していくと『私は何て恵まれているんだ』と思う日々。それは、先生方をはじめ、保護者役員の方々、役員OB・OG、そして職場の同僚、何より私の活動中に夫が子どもを見てくれて協力してくれるからです。会長の役職は、一人ではできませんが、周囲の協力を得られる環境が整えば誰でもできるんだと私は思います。

私が会長になって意識したことは、多くの保護者を巻き込むことと、楽しい活動になるよう計画を工夫することです。なぜなら、多人数で分担した方が

負担は少なくなるし、保護者の働いて楽しんでいる姿を子どもたちに見せられるからです。子どもたちが親になった時、力を合わせて働く親、そして、子育てを楽しめる親になって欲しいと願っています。

私の子は支援学級にいて『支援学級は大変だからいいよ』と言われ壁を感じたことがありました。しかし、どの子も同じで、親の姿は記憶に残ると思います。

私は壁を取り除き、多くの保護者が参加して活動を楽しめるPTAを目指していけたらと思っています。

母親代表理事

大平 泉

(郡山市)



令和3年は「福島県PTA連合会」創立70周年 ～受け継がれる子への思い～

この機会に19年前に作られた「創立50周年記念誌(歩)」を手に取りました。過去のデータ、歴代会長メッセージ、そして母親代表理事の座談会などの中には、子どもたちへの思いなど、今も「共感」できることが数多く記載されていました。

特に、櫻井元県PTA連合会長(H2～4年)からのメッセージには、「21世紀は心の時代にふさわしいPTAであってほしい」、「先生方、子どもたちのお話を真剣に聴いてください」とありました。19年が経過し、人口減少や核家族化による地域活動離れ、SNSによるトラブル、不登校やいじめ等の多岐にわたる心の課題が全国的にも現実となっています。

このような中、PTA連合会では研究大会や母親代表者懇談会などを通して「親も共に学ぶ」ことを実践しています。学びながら情報交換をすれば視野も格段に広がります。

そして、東日本大震災・原子力災害事故発生から

まもなく10年を迎え、今は新型コロナウイルスで社会全体が混乱しています。県全体として課題を共有しながら考えていくことができるPTA連合会は大切だと実感しています。

「子どもたちのために」という思いは70年前から変わっていないはずです。子どもは地域の人たちによって更に大きく育ちます。PTA活動には、参加できるときに気持ちよく協力し合いながら、多くの保護者に参加してほしいと考えています。

さて、来年度の県大会は、福島市で開催！台風で中止となった「南相馬大会」、コロナ禍で中止となった「東北ブロック大会・会津若松大会」への思いを重ねた大会です。

**協力し合って必ず成功
させましょう！！**

母親代表理事

松谷 恵理子

(須賀川市)



会津地区母親部会活動報告 「コロナ禍を未来に生かせ」



会津若松市PTA連合会母親部会は、今年度の活動計画として2回の教育講演会を予定していました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止せざるを得ませんでした。

会津地方の状況が改善に向かったため、11月7日に会津若松市PTA連合会での教育講演会を開催することができました。

会津若松ザベリオ学園中、高校教頭の遠藤直哉先生を講師にお迎えして「コロナ禍を未来に生かせ。生意気な生徒が世の中を変える」と題してお話を伺いました。

遠藤教頭先生は、高校の教壇に立ちながら福島医

大で博士課程の単位を取得した経歴の持ち主で、感染予防と子供の教育についての貴重なお話を伺うことができました。子供達のやる気をどのように引き出すか、素直になれない子供とどう付き合うかなど、私達が改めて子育てを見直す内容です。先生が真剣に生徒と向き合い、諦めない姿勢が大事。生徒のやりたいことを否定しないでやらせる。など先生の熱い話に胸が熱くなり、子供達の未来をどうサポートできるか考えました。

本年度は、大きく社会環境が変わり、普通にできなくなるといった初めての経験をしました。こんな時だからこそ希望を子供達に持ってもらうように私達にできることを考えていこうと思います。

母親代表理事 土井 洋美

(会津若松市)

いわき市の活動テーマ「親が変われば子は変わる」～みんなで子育てを語りましょう～



いわき市母親委員会は、いわき市連絡協議会の研修部に位置づけられ、市内各小中学校PTAより選出された母親委員で組織されています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年は運営委員会及び母親リーダーセミナーの開催を見送りましたが、各方部会はコロナ対策として人数制限等工夫して開催できた地区もあります。そのいくつかを紹介いたします。

- 9月30日(水) 小名浜方部
テーマ「親が変われば子は変わる」
- 10月12日(月) 遠野方部
テーマ「コロナ禍の思春期」
- 10月29日(木) 常磐方部
テーマ「親が変われば子は変わる」
～みんなで子育てを語りましょう～



- 10月～11月 内郷・好間・三和合同方部
各学校にアンケートを協力依頼。子育てについての疑問を「ダイヤルこだま・いわき相談員」の先生に答えていただく。
- 11月下旬 平方部 ⇒ コロナ禍により中止
テーマ「褒めて育てる子育て」

このように、いわき市母親委員会は、様々な制約の中でも、今出来る事は何かを考え、少人数での方部会開催や来年に繋げるための1年にしようと活動しています。

子どもたちの豊かな心を育み、安心して暮らせるための教育環境づくりは大人の責任ある役目だといえます。そのためにも、今後ともいわき市母親委員会としての研修の機会をより充実させ、研修の場が保護者の皆さんのネットワーク作りや自分育ての場となるようにしていきたいと思います。

母親代表理事 佐久間 佳代
(いわき市)

「児童減の中の資源回収の取り組み」

PTA 活動は、各地域や学校などでそれぞれ工夫されているかと思います。今年はコロナ禍により行事や PTA の活動が中止になりました。

このような中でも感染対策をしながら、資源回収を実施した小学校の取り組みを紹介します。

相馬市の中村第一小学校は、家庭数が減少し、収益も少なくなっており、年1回の資源回収だけでは集まらずにいました。昨年度より、毎週火曜日に子どもが持てる範囲(2日分)の新聞紙を持参しています。校舎内に置く場所が決められているので、そこに入れます。前日に学校よりメールが入るので、保護者も忘れずに準備することが出来ます。一日で約30kgくらい集める事が出来るそうです。今年度も11月に、資源回収を実施することが出来ました。地域の方や保護者の方に声をかけ、直接搬入して頂いたり、企業から回収するなど地域の方との信頼関係や繋がりもあります。

資源回収当日は、早朝より保護者、先生方、地域の方と顔を合わせ活動し、大切なつながりが持てる活動と考えています。今年は何かと変更せざるを得ない状況ですが、少しの工夫により活動が出来たこと感謝しております。この収益金は児童図書や音楽の備品、卒業の時のコサージュなど、児童や学校に還元されます。

子ども達が身近な所から「資源を大切に、リサイクルへの意識」も持つことが出来ればいいのではないでしょうか。さて、この集めた新聞紙はどのようにリサイクルされるのでしょうか。親子で考えてみたいと思います。

母親代表理事
田代 悦子 (相馬市)



研修委員会だより

福島県PTA連合会 お母さんだより合併号

県大会の
お知らせ

福島県PTA連合会70周年記念大会

第69回福島県PTA研究大会福島大会

令和3年10月3日(日) : とうほう・みんなの文化センター

「研修だより」 発行にあたり

令和2年度
研修委員長 大河原 利久
(平田村)



新型コロナウイルスの流行により、多くの方々が何らかの形で日常の変容を強いられています。福島県PTA連合会、研修委員会としても同様に予定していた取り組みを残念ながら中止としました。

しかし、そのような中でも各地区の母親代表理事の活動や思いを発信したい、コロナ禍でも出来る活動はないかと検討を重ねてきました。

その結果、県PTA理事会で承認を受けて例年発行していた「母親代表者活動報告 母親だより」を「研修委員会だより」として発行する事にしました。

委員一人ひとりがそれぞれの視点で記事を作成しました。この発行が各PTAや地域でのコミュニケーションの一助となり、今後県PTA連合会、研修委員会の活動が以前にも増して活発に、充実したものとなるようお祈りし、発行に当たっての経緯といたします。

分科会	研究テーマ	研究の視点
第1分科会 組織運営	地域と学校の「つながり」を作るPTA	(1)組織運営の工夫とPTA活動の活性化 (2)社会の変化やニーズに対応し、地域と連携するPTA活動
第2分科会 研修活動	研修活動の「今」を知る	(1)会員の参加意欲を高める研修活動の工夫 (2)充実したPTA活動につながる研修活動の「今」と「これから」
第3分科会 家庭教育	「家庭教育」って何？	(1)時代、環境の中で必要とされる家庭教育の根本 (2)学校と連携、つながりながらできる家庭教育
第4分科会 健全育成	進むメディアと正しく向き合う、家庭、学校	(1)進化し続けるメディアを正しく使えるために (2)メディア社会の中で生き抜く子どもたちのために できる家庭・地域・学校との連携
第5分科会 特別支援教育	いろいろな特別支援の形を知る	(1)支援を必要としている子どもたちについて知る (2)インクルーシブ教育への理解

「コロナ禍でのPTA活動について」



福島県PTA連合会副会長
(研修委員会担当)

宗像 真人
(いわき市)

今年度は新型コロナウイルス感染症のために、学校にとって重要な四月に緊急

事態宣言が出され、子供たちの学校生活やPTA活動にも大きく制限を受けることとなりました。例年、当たり前のように行われている活動の多くが、中止を余儀なくされてしまいました。

しかし、そのような中でも私たちPTAは、社会教育及び家庭教育の充実、子供たちの健全育成を目指していかなければなりません。今年度の母親代表の皆様はその目的を良く理解されていて、「コロナ禍だから何もしない」というのではなく、「この困

難の中でも何かを伝えていこう」という方々の集まりでした。

今回このように「母親だより」といういつもの形ではなく、「研修委員会だより」として皆さんに記事を書いて頂きましたが、委員の皆様が、各地域で活動に制限がある中でも、「今やれることは何か」を考え、それを行動に移されていることが分かって頂けたのではないかと思います。

PTA活動の多くは、人が集まってやらなければならないことが多いですが、感染防止対策に気をつけながら、「今やれることは何か」を考えて活動していきたいと思います。まだ収束が見えない状況ですので、一人一人が感染防止に取り組んで生活することが重要であると思います。また、感染された方への差別や偏見がないよう、家庭でのご協力をお願いいたします。